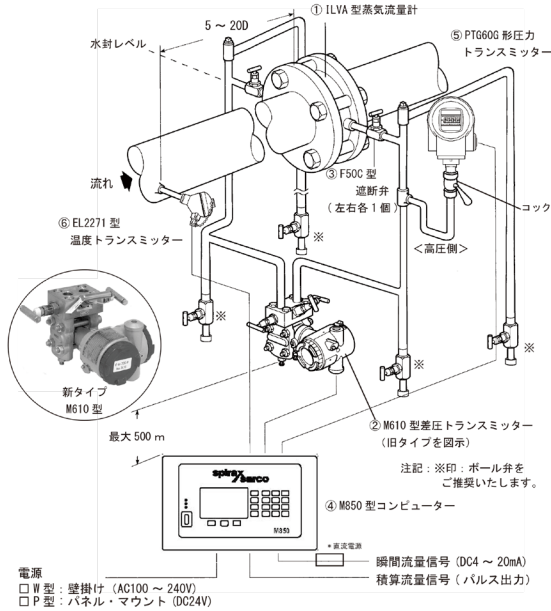


オリフィス式流量計 定期点検の御案内

スパイラックス・サーコのオリフィス式流量計をご購入いただきありがとうございます。設置後一定期間経過時の点検を推奨しております。

機器構成

点検時期の目安



	1 年後	2 年後	3 年後	4 年後	5 年後	6 年後	7 年後	8 年後	9 年後	10 年後
① 流量計センサ	○	○	○	○	◎	○	○	○	○	★
② 差圧トランスミッター	△	△	○	○	◎	○	○	○	○	◎
③ 温度トランスミッター	△	△	○	○	◎	○	○	○	○	◎
④ 圧力トランスミッター	△	△	○	○	◎	○	○	○	○	◎
⑤ コンピュータ	△	△	○	○	◎	○	○	○	○	◎
⑥ 遮断弁	△	△	○	○	◎	○	○	○	○	◎

○ お客様での点検を推奨

◎ スパイラックス・サーコによる現地での点検を推奨

△ 可能であれば点検を推奨

★ スパイラックス・サーコ内での実流校正

お客様による点検

○ & △ の時点でお客様に確認いただきたいポイントです。機器毎の点検内容をご確認ください。機器の詳細は各取扱説明書をご覧ください。取扱説明書はこちらでダウンロード可能です。(要会員登録)
<https://sxs-member.jp/>



① 流量センサ



圧力検出口の詰まりが最も懸念される部分なので 1 年に 1 回程度ブローを行うことをお勧めいたします。ブローを行った際に透明なドレンが排出される場合には、詰まりの可能性が低くなりますので、その後は 2 年に 1 回程度でも大丈夫と思われます。白濁または錆びが認められる場合には毎年行うようにしてください。※お客様の水质、配管内の状態により大きく変わりますので、最初は 1 か月→3 か月→半年→1 年と状況の確認をお願いいたします。

② 差圧トランスミッター



2 年以上経過した段階で差圧と出力信号の状態に問題がないかの点検をお奨めします。弊社で実際にお客様の現場に訪問し点検も行っておりますが、正常であることを確認することが主体となっておりますので、点検を行わなくても問題のないのが実情となっています。ブリード弁を緩めてトランスミッター内のドレンを少量抜いてみてドレンに汚れ(不凍液など特殊な液体を使っている場合は除く)がないことを確認してください。汚れがある場合にはドレンが透明になるまで抜いて、差圧感知部分に接するドレンをきれいな状態に保ってください。多量に抜いた場合には注水口から補充するようにしてください。

③④ 温度 / 圧力トランスミッター



コンピュータの温度 / 圧力表示に問題がないかを定期的に点検してください。

⑤ コンピュータ



操作用押しボタンを押して表示が切り替わること、表示部に問題がないことを定期的に確認してください。表示等に問題がある場合には操作説明書に記載されているトラブル時の対応についての記載に従って点検してください。

⑥ F50C 型遮断弁



定期的に遮断弁を閉じてみて完全に閉弁できることを確認してください。またグラウンド部分からの漏れがないことも確認してください。

可変オリフィス式流量計は流量センサから得られる差圧をトランスミッターで感知して流量信号を出力するようになっています。したがって差圧が正常に得られないと、流量表示が多くなったり少なくなったりします。特に Hi 側の差圧感知口が詰まってしまうと流量表示はゼロのままになってしまいます。ブローで復旧できないような固着物によって差圧感知口が詰まってしまった場合には、圧力検出配管を外して直径が 3 ミリ程度のドライバー等で取り除くようにしてください。

* 圧力検出配管関連に問題がない場合には差圧トランスミッターの出力信号状態を点検する必要がありますのでスパイラックス・サーコにご相談ください。

スパイラックス・サーコによる点検内容

★&◎の際、スパイラックスによる点検を実施する場合は下記の内容になります。機器毎の点検内容をご確認ください。機器の詳細は各取扱説明書をご覧ください。

① 流量センサ



スパイラックス・サーコによる実流校正

リターン・スプリングには耐久性に優れた最高の材質となる『インコネル』製を採用しています。またコーン自体の材質もステンレス製で耐腐食性に優れた上に、摩耗しにくい特殊な形状にしておりますので経年劣化による精度への悪影響はほとんどありません。しかし流量に対する差圧の発生状況を検証する必要がある場合には弊社の実流校正装置に取り付けてテストを行う必要があります。現場での校正は行えませんのでご了承ください。実流校正をご希望の場合には、少なくとも1か月以上前に弊社営業担当者にご連絡ください。費用および校正期間については別途ご相談の上、対応させていただきますのでご了承の程お願い申し上げます。

② 差圧トランスミッタ



現地で点検

差圧校正器を使って差圧と流量信号の状態を確認します。

③ ④ 温度 / 圧カトランスミッタ



現地で点検

圧力計などの表示を基準にして温度 / 圧力の表示に問題がないかどうかを確認します。ただし実際の圧力または温度の変化に対する信号の出力状況を確認する必要がある場合には、現場での確認が困難なので弊社内での検査になります。

⑤ コンピュータ

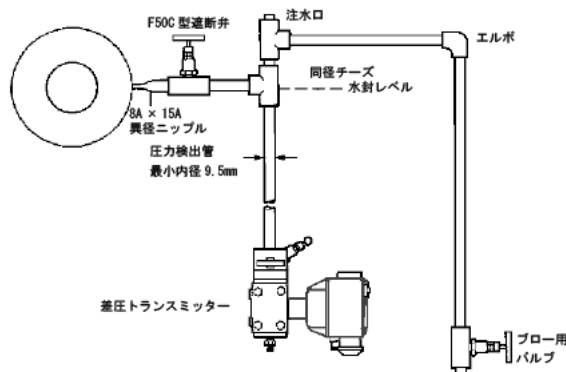


現地で点検

- ・各トランスミッタとの DC4 ~ 20 m A 信号の伝達状況の確認を行います。
- ・パルスおよびアナログの外部出力信号の状態を確認します。

*ブロー用バルブ

ILVA 流量センサーの圧力検出口は直径が 3mm 程度となっています。長期間使用されている時に、蒸気の質や配管内の腐食状況により、配管内のスケールが付着して、差圧を感知できなくなることがあります。そのような状況に容易に対処できるように、図のようなブロー用バルブを取り付けて、定期的にブローを行うことをお勧め致します。この操作は、蒸気を止めなくても行うことができますので、メンテナンスの際にも非常に便利です。



点検内容で不安がある場合は

点検がうまくいかない、不明点がある、点検に時間が取れない、点検したが異常がある 等の場合は担当営業または下記、Web サイトよりご連絡ください。

<https://spiraxsarco.co.jp/inquiry/>



お問い合わせは下記営業所もしくは取扱い代理店までお願いいたします。

スパイラックス・サーコ合同会社

営業部 イースト	■電話 043-274-4811	■FAX (043)274-4818	■住所 〒261-0025 千葉市美浜区浜田2-37
営業部 ウエスト	■電話 06-6681-8921	■FAX (06)6681-8925	■住所 〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋2-11-8 北加賀屋千島ビル203号
技術部	■電話 043-274-4819	■FAX (043)274-4818	■住所 〒261-0025 千葉市美浜区浜田2-37

取扱説明書の内容は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

※2023年1月4日より社名が変更しました。